



お墓参りのご案内



7月11日（土曜日） トロント各墓地にて

お墓参りスケジュール

<u>杉浦輝 先生</u>		<u>宇佐美智瑞 先生</u>		<u>ジェフ・ウィルソン先生</u>	
York Memorial	9:00 AM	Sanctuary	9:00AM	Spring Creek	9:30AM
Prospect	10:15 AM			Glen Oaks	10:15 AM
Park Lawn	11:30 AM			Meadowvale	11:30AM
<u>橋本顕正 先生</u>		<u>ポーリン・クヌーデ</u>		<u>デニス間所</u>	
Toronto Necropolis	9:00 AM	Salem U.C	11:00AM	Highland Memorial	9:30 AM
St. James	9:30 AM	Pine Ridge	12:00PM	Elgin Mills	11:30 AM
Mount Pleasant	10:30 AM				
<u>ローランド生田 先生</u>		<u>ジョン西川</u>			
Pine Hills	9:30 AM	Glendale	9:30 AM		
Resthaven	10:30 AM				

盂蘭盆会法要（お盆）のご案内

日程：2026年7月11日（土） 午前：お墓参り（トロント各墓地にて）
 午後：4時～夏祭り（盆踊りは7時～） JCCCにて
 2026年7月12日（日） 午前9時：初盆法要
 午前10時半より日本語での法話
 午前11時より：英語盂蘭盆会 お寺にて
 初盆法要・盂蘭盆会法要の質問は、当寺院の事務所< tbc@tbc.on.ca >までご連絡下さい

※夏祭りに関しましてのお問合せは、JCCCまで宜しくお願い致します。

今年のお盆のゲストスピーカー（ご講師）は、アルバータ州レスブリッジの南アルバータ仏教会よりローランド生田先生にお越しいただきます。

皆様ご家族揃ってご参拝下さい。ご一緒にお聴聞させていただきます。



祥月法要のお知らせ

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの仏徳を讃嘆し、報謝の思いでお勤めする法要です。

日時… 七月 五日（日）

八月 二日（日）

九月 十三日（日）

（日本語…午前十時四十五分から）

（英語…午前十一時から）

どうぞ祥月でない方も皆様ご参拝下さい。



お盆（盂蘭盆会）のお知らせ

日時…七月 十一日（土）

午前中 お墓参り

午後七時より 盆踊り 日系文化会館

七月 十二日（日） 盂蘭盆会法要

午前九時 初盆法要

午前十時半 日本語法要

午前十一時 英語法要

お墓参りの具体的なスケジュールについて、今年ご講師の先生については四頁目をご確認ください。

ピクニックのお知らせ

日時… 八月 十五日（土）

正午から午後四時頃まで

場所… ワサガビーチ（ルンビニ）

食事… ホットドック・ハンバーガーなど

駐車場に限りがありますので参加希望者は寺院事務所にご連絡お願いします。



ラリースانデー

毎年、レイバーデーの後の日曜日はお寺では、ラリースانデーとしてお寺の様々な取り組みを紹介するパネルなどが地下ホールに設置されにぎやかな一日となります。

今年は橋本と杉浦先生、そして現在お寺を手伝ってくれている宇佐美さんが修了した龍谷大学大学院実践真宗学研究科の学生と教授の方々がカナダ東地区研修でモントリオール・オタワ・トロントを訪問されます。

研修の一環でラリースانデー並びに九月の祥月法要に参拝される予定となっております。ぜひ皆様で日本からの学生をお迎えしましょう！

ボランティアの皆様へ

寺院内外に問わず、トロント本願寺の護持発展に対して、ご尽力くださるすべての方々に感謝を申し上げさせていただきます。

合掌



モミジでの定例法要

（第2木曜日10時半～）

※昨年より午前中に変更

8月はお休みです



そして、地獄・餓鬼・畜生という三悪道に向かうような私たちのあり方をも照らし、そこに仏さまの道をひらいてくださるのです。

第六、第七、第八の光である清浄光・歓喜

光・智慧光は、人間の食欲・瞋恚・愚痴という三毒の煩惱に対応している光といわれます。食欲とは、何でも自分の思い通りにしたい、もっと欲しいとむさぼる心です。その心を照らし、清らかな方向へと導いてくださるのが清浄光です。瞋恚とは、自分の思い通りにならない時に起こる怒りや憎しみの心です。その心をやわらげ、よろこびへと転じてくださるのが歓喜光です。愚痴とは、物事の本当の姿が見えず、自分中心の考えに迷っている心です。その迷いを照らし、真実に気づかせてくださるのが智慧光です。

第九の不断光とは、絶えることなく私たちを照らし続ける光です。私たちが仏さまの教えを忘れていた時も、阿弥陀さまの光は決して途切れることなくはたらいてくださいます。

第十の難思光とは、私たちの思いや考えでは、はかり知ることのできない光です。阿弥陀さまの智慧と慈悲は、私たちの小さな理解を超えてはたらいてくださいます。同じように、第十一の無称光は、言葉では言い尽くすことのできない光です。往生とともに仏にしていたくその尊いおはたらきは、どれほど説明しても尽くせないほど深く広いものです。

そして最後に、第十二の超日月光とは、太陽

や月の光をも超えた、もっともすぐれた光です。太陽の光は昼を照らし、月の光は夜を照らします。しかし、阿弥陀さまの光は、昼夜を問わず、場所を選ばず、私たちの迷いの心を照らし続けてくださいます。

この夏、トロントではW杯の話題もあり、スポーツには、国や世代、言葉の違いを超えて、人と人とがつながっていくよろこびがあります。盆踊りも、ただの楽しい夏のイベントではありません。お盆のご縁の中で、亡き方々を偲び、いのちのつながりを味わう仏教行事として受け継がれてきました。輪になって踊る時、上手な人も初めての人も、昔から参加している人も今年初めて来た人も、その輪の中に自然と包まれていきます。

この「包まれている」ということは、阿弥陀さまの光明のおはたらきを味わう上でも、大切なことだと思えます。阿弥陀さまの光は、立派な人だけを照らす光ではありません。仏さまの教えをよく分かっている人だけを照らす光でもありません。まだ教えに出遇っていない人、まだ信心をいただいていない人をも照らし、少しずつ本願へと導いてくださる光です。

そして、本願のまことを聞き受けた者を、阿弥陀さまはその光の中におさめ取って、決して捨てることはありません。阿弥陀さまの光明とは、迷いの中にある私たちを照らし、導き、そしてそのまま抱きとめて離さないおはたらきなのです。

この夏のにぎわいの中で、盆踊りをきっかけに初めてお寺を知る方もあるかもしれません。また、長くお寺に関わってきた私たちにとつても、ここが阿弥陀さまのみ教えを聞く場所であることを、あらためて味わうご縁となるでしょう。

阿弥陀さまの光明は、今も私たちにはたらいています。まだ気づいていない者を導き、迷いの中にある者を育て、そして本願を聞き受けた者を、光の中におさめ取って決して捨てない。そのおはたらきが、南無阿弥陀仏となって、今、私たちに届いてくださっているのです。

合掌

駐在開教使 橋本顕正

枕経のお知らせ

ご家族の枕経を検討されている場合は、当寺院の寺務所へご連絡いただくようお願いしております。ご希望の時間を調整し、ご一緒に臨終の仏徳讃嘆のお勤め、もしくは、故人を偲びながら、ご家族の皆さんとお勤めをさせていただきます。当寺院に事前にご連絡いただくことにより、ご家族の質問への対応や必要な情報を提供することが可能となります。

トロント本願寺 理事会

今月の正信偈
十二の光



【原文】

普放無量無辺光　無礙無対炎王
清浄歡喜智慧光　不斷難思無称光
超日月光照塵刹　一切群生蒙光照

【現代語訳】

本願を成就された仏は、無量光・無辺光・無礙光・無
 对光・炎王光・清淨光・歡喜光・智慧光・不斷光・難思
 光・無称光・超日月光とたたえられる光明を放って、広く
 すべての国々を照らし、すべての衆生はその光明に照らさ
 れる。

トロントはW杯で盛り上がっていますが、七月に入り、いよいよお盆の時期となりました。今年には文化会館での盆踊りも、しっかりとお寺主催の伝統の盆踊りであることをアピールするために、正式に「トロント仏教会盆踊り」という名称に変更いたしました。

もちろん、文化会館にて開催される前から盆踊りに参加して下さっている方にとっては、「仏教会の盆踊り」であることはよくご存じのことと思います。しかし、特にここ二十年ほどの間にトロントに來られた方々にとつては、「仏教会の盆踊り」であることがあまり知られておらず、文化会館のイベントだと思われてし

二〇二六年五月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺

を聞く場所としての、お寺の存在を知っていただけだと思います。

さて、正信偈についての記事を二か月ぶりに書かせていただきます。四月の記事では、法蔵菩薩が苦しむすべての衆生のいのちを仏にしたという願い、本願を建立され、その願いが単なる希望に終わることなく成就して、阿弥陀仏のはたらきとなり、今、南無阿弥陀仏という名号となつて私たちに届いている、というお話をしました。

今回は、その阿弥陀仏のおはたらきについて、『無量寿経』に示された十二の功德の光明についての六句を味わっていきたいと思います。この阿弥陀さまの光明の功德は、もちろん十二に限られるものではありません。ここでは、阿弥陀さまの光明のおはたらきが、十二の面からほめたたえられているのだと受け止めさせていただきます。

第一 第二の無量光と無辺光については、それぞれ時間的制限、空間的制限がないという、阿弥陀さまの完全なる救いの根本となるものです。簡単に言えば、「いつでも、どこでも」のおはたらきであるということです。無辺とは、光に際限がないということです。それはつま

り、中心がないともいえますし、また、どこも中心であるとも受け止めることができるでしょう。

第三の無礙光については、「さまたげ」のない光であるということです。親鸞聖人は、十二光の中でも、この無礙光を特に中心に据えておられます。一般的には、仏となることの「さまたげ」となるものは煩惱であると考へられます。しかし、阿弥陀さまの救いの光は、その煩惱を「さまたげ」としません。どれほど私たち衆生の煩惱が深くても、阿弥陀さまの光はその私を照らし続けてくださいます。まさに、煩惱に満ちた凡夫が救われていく光であるということです。

また 第四の無対光からは、先に述べられた無礙光のはたらきを、さらに詳しく分けて示したものであるとされています。無対光とは、比べるもののない智慧の光です。私たちは、自分ではどうすることもできない過去からの縁や、さまざまな苦しみにとらわれて生きています。しかし、そのような私たちを、阿弥陀さまの智慧の光が照らし、苦しみの中に閉じ込められたままにはしないのです。

第五の光炎王光とは、炎のように明るく、力強い光です。その光は、私たちの心に起こる迷いや妄念を照らし破つてくださいます。

【次頁に続く】